

「情報処理学会論文誌 (IP SJ Journal)」原稿執筆案内

2002年9月改訂
2004年4月改訂
2005年5月改訂
2006年4月改訂
2007年3月改訂
2007年12月改訂
2008年9月改訂

2.1. 発行の目的

情報処理学会論文誌は会員の研究成果の発表およびこれに関連する討論の場を提供するために発行される。

2.2. 掲載記事

(1) 掲載記事は会員が自発的に執筆し投稿するので、論文、テクニカルノートおよび誌上討論の3種類がある。

・論文

学術、技術上の研究あるいは開発成果の記述であり、新規性、有用性などの点から、会員にとって価値のあるもの。

・テクニカルノート

新しい研究開発成果の速報または技術上の新しい提案。

・誌上討論

掲載された論文またはテクニカルノートに対する質問および回答。

(2) 学会等が発行する論文審査を伴う刊行物に投稿中の論文および学会等が発行する学術雑誌にすでに掲載あるいは採録された論文と内容が同一の投稿原稿は採録しない。なお同一性の判断はその内容によって行い、記述言語、文体、体裁等の差異は問わない。採録後に二重投稿の事実が判明した場合は、採録取消もあり得る。

(3) 投稿者は原則として本学会会員に限る。寄稿者が連名の場合は、少なくとも1名は本学会会員でなければならない。

(4) 掲載記事の内容についての最終責任は著者が負うものとする。

2.3. 投稿手続

(1) 投稿原稿は日本語で、表-1に示す刷上標準ページ数に収まるように記述することが望ましい。

(2) 投稿原稿の形式は、2.8記載の「原稿形式」に従わなければならない。ただし、誌上討論に関しては、形式は自由とし、投稿する際はあらかじめ editt@ipsj.or.jp に申し出ること。

(3) 投稿原稿に対し学会は、受付日と受付番号を付した原稿受領書を発行する。投稿原稿の間合せなどは、以後、この受付番号で行うものとする。

2.4. 投稿原稿の取扱い

(1) 論文とテクニカルノートは、査読委員によるブラインド査読を行う。論文の場合、著者に照会し回答を求めた上で、改めて審査を行い、採否を決定することがある。

(2) 採録が決定した論文、テクニカルノートは、委員会開催後に Web 上でその旨を発表する。また、論文誌に掲載する際には、末尾に、原稿受付日および採録決定日を付記する。

(3) 条件付採録の場合は、部分的に論旨が不明な点、あるいは錯誤と思われる個所について、照会を行う。照会は原則として1回とする。採録の条件に関連して原稿に手を加えることができる。この場合、変更個所と変更理由を明示しなければならない。回答期限は2カ月以内で、これを経過した場合は、取り下げたものとみなす。

(4) 不採録と決定した原稿は、不採録理由を著者に返却する。

(5) 投稿論文およびテクニカルノートは、次の場合に不採録とする。

- a. 本学会で扱う分野と大きくかけ離れている。
- b. 本質的な点で誤りがある。
- c. 本質的な点が公知・既発表のものに含まれており、新規性が不明確であり、かつ本学会関連の学術や技術の発展のための有効性が不明確である。
- d. 内容に信頼できる根拠が示されていない。
- e. 書き方、議論の進め方などに不明確な点が多く、内容の把握が困難である。
- f. 条件付採録で示した条件が満たされていない。

(再投稿論文のみ適用)

- g. その他編集委員会が不適当と判定したもの。
- (6) 著者は投稿原稿を取り下げることができる。この場合、書面で論文誌編集委員会に申し出なければならない。

2.5. 掲載決定通知等

(1) 投稿原稿の採録が決まると、採録決定通知を投稿者に送付する。

(2) 採録原稿の掲載号が決まると、掲載決定通知を投稿者に送付する。同時に電子入稿のための案内を送付するので、その指示に従い、最終原稿を提出すること。原稿の送付先および問合せ先は下記の学会事務局とする。

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5
 化学会館 4F

(社) 情報処理学会 論文誌担当

電子メール editt@ipsj.or.jp

Tel (03)3518-8372 Fax (03)3518-8375

(3) 誤植防止のために著者に校正刷りを送る。校正の際の原稿および図面の変更は認めない。

(4) 著者から誤謬訂正の申し出があった場合、正誤表を掲載する。事情により有料となることがある。

(5) 論文誌に掲載された論文、テクニカルノートの著者は、掲載料を支払わなければならない。掲載料は表-2による。

(6) 提出された原稿および媒体は返却しない。

(7) 論文は、情報処理学会電子図書館の論文誌に掲載される。

2.6 著作権

別に定める「情報処理学会著作権規程」に従う。

特別な事情によりこれに添えない場合は、投稿時に必ず書面で申し出ること。

(1) 図・写真などを引用する場合は、その所有者に必ず了解を得た上で、その出典を明記する。

(2) 商標もしくは登録商標を使用する場合は該当個所にその旨を明記する。

(3) 学会 Web サイトから取得できる Copyright Transfer Form に署名し提出すること。

2.7. 個人情報の取り扱い

論文に掲載された氏名・電子メールアドレス・略歴等は、以下でも公表される。不都合がある場合は、最終原稿送付時に必ず申し出ること。

* 情報処理学会が発行する CD-ROM 等のメディア、情報処理学会が許諾した外部サイト

2.8. 原稿形式

2.8.1 原稿の構成

論文誌の原稿は、次の i. ~x. により構成する (i. ~x. でオリジナル原稿一式とする)。

i. 標 題：和英両文で書く。原稿の種別を標題の左肩に明記すること。

ii. 著者名・所属：氏名、所属を和英両文で書く。共著の場合、著者と所属機関の対応を明示すること。また、会員・非会員の別（会員の場合は会員番号も）、著者連絡先（住所、電話番号（内線）、E-mail 等。複数著者の場合は連絡担当者に*印を付すこと）、ワープロ等の場合論文作成手段（機種およびソフト名）を用紙の下部に明記すること (2.8.2 参照)。

iii. 和文アブストラクト：600 字（テクニカルノートは 300 字）以内。

iv. 英文アブストラクト：200 語（テクニカルノートは 100 語）以内。

v. 本 文：

vi. 謝 辞：必要ならば付けてもよいが、できるだけ簡単なものとする。

vii. 参考文献：研究内容に関連して文献を引用する場合、関連する本文中の個所の右肩に参考文献番号を書き、末尾にその文献をまとめて記述する (2.8.4 参照)。引用文献は、すでに刊行物に掲載されているか、あるいは掲載が確定している文

献に限る。

viii. 付 録：長い数式の誘導の過程や、実験装置などの詳細な説明を本文に挿入すると論旨が不明瞭になる場合、付録を設けてよい。

ix. 図 (2.8.4 参照)

x. 表 (2.8.4 参照)

なお、オリジナル原稿は、採録決定後提出する最終原稿の形式であり、投稿時の原稿については、2.8.3 記載の「投稿原稿の提出方法」を参照のこと。

2.8.2 原稿の様式

情報処理学会論文誌 LaTeX スタイルファイルには投稿用 (draft) スタイルファイルと掲載用 (final) スタイルファイルがある。投稿には投稿用スタイルファイル (以下、単にスタイルファイルという) を用い、それに従って LaTeX で書式付けされた原稿を基本とする。その他のワープロ等で作成した原稿も受け付ける。

(A) LaTeX で作成する場合には、スタイルファイルに付属した説明書に従って i. ~ x. を記述し、注意事項を守ること。使用できるフォントや組み込むことのできるポストスクリプトファイル (図表等) の形式には制限がある。注意事項が守られていない場合には処理ができずやむを得ず返却することがある。

スタイルファイルの入手方法は学会ウェブサイト内 <http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/shippitsu/wabun.html> で案内されている。

(B) MS-Word で作成する場合には、テンプレートファイルの説明に従って作成すること。

テンプレートファイル入手方法は学会ウェブサイト内 <http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/shippitsu/wabun2.html> で案内されている。

(C) その他のワープロ等で作成する場合は、用紙サイズは A4 判に設定し、字詰は次による。

和文：24 字×26 行 (A4 判の場合、上下左右各 45mm 程度の余白をとる)

英文：ダブルスペースで、1 ページあたり約 250 語。

大見出しは 2 行どりとする。

i., ii., iii. +iv., v. +vii. +viii. +ix. +x., vi. はそれぞれ別用紙に、必ず用紙を改めて記述するこ

と。

2.8.3 投稿原稿の提出方法

(1) 新原稿を投稿する際は、学会サイト下記 URL のオンライン論文査読管理システム (Paper Review Management System : PRMS) より電子投稿を行う。

https://www.ipsj.or.jp/prms/author_pre_submit.do

必要事項を入力したうえで、オリジナル原稿から ii. 著者名・所属および vi. 謝辞を除き PDF 化したもの (LaTeX スタイルファイルには著者情報と謝辞の出力を抑止するオプションあり) をアップロードする。

(2) 再投稿する際は、改訂原稿の PDF と回答書 (書式自由。ただし著者名および所属は記入しない。) の PDF をアップロードする。

なお、論文審査を円滑に行えるよう、上記 (1)、(2) においてアップロードする PDF ファイルに、印刷やテキストのコピー等の制限をかけないようご配慮願いたい。

2.8.4 原稿執筆上の一般的注意事項

(1) 専門用語については、簡単な用語解説を添付することが望ましい。また本文中に使用する記号には必ず説明をつける。

(2) 参考文献は原則として、雑誌の場合には、著者、標題、雑誌名、巻、号、ページ、発行年を、単行本の場合には、著者、書名、ページ数、発行所、発行年を、この順に記す。次の例を参照にされたい。

4) 山田太郎：偏微分方程式の数値解法，情報処理，Vol. 1, No. 1, pp. 6~10 (1960) .

5) Feldman, J. and Gries, D. : Translator Writing System, Comm. ACM, Vol. 11, No. 2, pp. 77-113 (1968) .

7) 大山一夫：電子計算機，p. 300，情報出版，東京 (1991) .

8) Wilkes, M. V: Time Sharing Computer Systems, p. 200, McDonald, New York (1990) .

(3) 図 (モノクロ写真およびカラー写真を含む) および表には、図 1 および表 1 のような通し番号と名称を和文と英文でつける。英文はその図や表の内容が本文を参照しなくても理解できるよう配慮する。

LaTeX による場合、図表は、ポストスクリプトファイル等を組み込むことも可能。組み込むファイルの形式はスタイルファイルの説明を参照のこと。

図・表のできあがり寸法と行数または枚数の換算は次のとおりである。

(4) 日本語記事の場合、句読点は全角の“.”、“および”、“”を用いる。

寸法 (mm)	ワープロ原稿の場合の 行数 (24字×26行)
A. 50×34	6 行
B. 67×50	13 行
C. 100×67	26 行
D. 134×100	39 行

LaTeX で使用できるフォントの種類はスタイルの説明を参照すること。それ以外のフォントを使用したときには、予期しないできあがりとなることがある。

以上

表-1 論文誌の投稿記事種目

種 目	内 容	刷上標準 ページ数	ワープロによる 和文記事原稿枚数
(1) 論文	学術、技術上の研究あるいは開発成果の記述であり、新規性、有用性などの点から、会員にとって価値のあるもの。	8	24
(2) テクニカルノート	新しい研究開発成果の速報または技術上の新しい提案。	4	12
(3) 誌上討論	掲載された論文またはテクニカルノートに対する質問および回答。	1	3

原稿枚数、語数はタイトルや図表などすべてを含めた数値
ワープロの場合の原稿用紙 (24×26 行=624 字)

表-2 論文誌掲載料

(単位：円/消費税込み)

ページ数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
価格	13,650	27,300	40,950	54,600	68,250	81,900	95,550	109,200	132,825	156,450

なお、8ページを越えるときは、1ページにつき23,625円 (消費税込み) 加算する。
カラーでも料金は変わらない。

参考文献は、次の形式に従って記述すること。

●著者:

・3名以内の場合は、全員記載する。英文の場合は

_____, _____ and _____

と記載する。

・4名以上の場合は、下記のように省略して記載してもよい。和文の場合は

_____, _____, _____ほか

と記載する。英文の場合は

_____, _____, _____, et al.

と記載する。

●姓名:

・姓・名の順に記載する。和文の場合は、フルネームで記載する。英文の場合は、次の形式に略する。

Barry Blesser → 略 Blesser, B.

Takashi Yoshino → 略 Yoshino, T.

●雑誌名:

・和文雑誌は、原則として略記せず、完全誌名を記述する。

・英文雑誌は、国際的な慣行に従って略記表記してもかまわない。

●標題:

・標題の大文字・小文字は、原稿のまま記載する。

●コンマおよびピリオドの使い方:

・和文には、全角コンマ、全角コロン、全角ピリオドを用いる。

・英文には、半角コンマ、半角コロン、半角ピリオドを用いる。半角コンマの直後には半角スペースを入れる。

●各参考文献の記載例を示す。

○和文雑誌

1) 著者名: 標題, 雑誌名, Vol.をつけて巻, No.をつけて号, pp.をつけて始めのページ-おわりのページ(西暦年).

例

1) 荒金陽助, 下川清志, 金井 敦: 音声対話システムにおけるスケーラビリティ評価モデルの検討, 情報処理学会論文誌, Vol.46, No.9, pp.2269-2278 (2005).

○英文雑誌

1) 著者のFamily nameのあとに“,”(コンマ)をつけて, Middle Name, Given nameのイニシャルのあとに“.”(ピリオド)をつける: 標題, 雑誌名(雑誌名は, 略称でイタリックにする), Vol.をつけて巻, No.をつけて号, pp.をつけて始めのページ-おわりのページ(西暦年).

例1

1) Tan, T.R. and Ikeuchi, K.: Illumination Color and Intrinsic Surface Properties-Physics-based Color Analyses from a Single Image, *IPSPJ Trans. CVIM*, Vol.46, No.SIG9 (CVIM 11), pp.56-59 (2005).

例2

2) Rivest, R.L., Shamir, A. and Adleman, L.M.: A method for obtaining digital signatures and public-key cryptosystems, *Comm. ACM*, Vol.21, pp.258-261 (1978).

○国際会議プロシーディング

1) 著者: 論文名, Proc.をつけてプロシーディング名(プロシーディング名は, イタリックにする. 略称で記載してもよい. また, 完全名を記載し, さらに括弧内に略称を付記してもよい. なお, 括弧はイタリックにしないこと.), 編者名(編者名が不明の場合は不要), pp.をつけて始めのページ-おわりのページ, 版元(版元が不明の場合は不要)(西暦年).

例1

1) Ichiro, S.: A Component Framework for Document Centric Network Processing, *Proc. IEEE International Conferences on Symposium on Applications and the Internet (SAINT 2007)*, IEEE Computer Society, p.7 (2007).

例2

2) Tang, C.J. and Minneman, L.S.: VideoDraw: a video interface for collaborative drawing, *Proc. CHI'90*, pp.313-320, ACM (1990).

○単行本

1) 著者:タイトル, pp.をつけて始めのページ-おわりのページ(書籍全体を参照する場合は不要), 版元(西暦年).

2) 編者(Eds.)(英文の場合): 書名, 著者: タイトル(イタリックにする), pp.をつけて始めのページ-おわりのページ, 版元(西暦年).

3) 編者(編)(和文の場合): 著名, 著者:タイトル, pp.をつけて始めのページ-おわりのページ, 版元(西暦年).

例1

1) 伊藤和人:LATEX トータルガイド, 秀和システムトレーディング (1991).

例2

2) Okada, K., Hoshi, T. and Inoue, T. (Eds.): Communication and Collaboration Support Systems, Grudin, J.: *Communication and Collaboration Support in An Age of Information Scarcity*, pp.13-23, IOS Press (2005).

例3

3) 阪田史郎(編著):センサネットワーク, 河野隆二:UWB高速センサネットワーク, pp.79-132, オーム社(2006).

○訳本

1) 原著記載.(ピリオドで一旦終了) 訳者名(訳):訳本タイトル, pp.をつけて始めのページ-おわりのページ, 版元(西暦年).

2) 原著者(著), 訳者名(訳):訳本タイトル, pp.をつけて始めのページ-おわりのページ, 版元(西暦年).

例

1) Chang, C.L. and Lee, R.C.T.: Symbolic Logic and Mechanical Theorem Proving, Academic Press, New York (1973). 長尾 真, 辻井 潤一(訳):計算機による定理の自動証明, 日本コンピュータ協会(1983).

○電子雑誌

1) 著者名:標題, 雑誌名, Vol.をつけて巻, No.をつけて号, pp.をつけて始めのページ-おわりのページ(媒体表示), DOI(DOIの利用を推奨)(西暦年).

2) 著者名:標題, 雑誌名, Vol.をつけて巻, No.をつけて号, pp.をつけて始めのページ-おわりのページ(媒体表示), 入手先(URL)(西暦年).

例1

1) Yamakami, T.: Exploratory Session Analysis in the Mobile Clickstream, *IPSJ Digital Courier*, Vol.3, pp.14-20 (online), DOI: 10.2197/ipsjdc.3.14 (2007).

例2

2) 波多野賢治, 絹谷弘子, 吉川正俊, 植村俊亮:XML文書検索システムにおける文書内容の統計量を利用した検索対象部分文書の決定, *電子情報通信学会論文誌D*, Vol.J89-D, No.3, pp.422-431(オンライン), 入手先<<http://search.ieice.org/>> (2006)

○Webサイト, Webページ

著者名:Webページの題名, Webサイトの名称(著者と同じ場合は省略してもよい), 入手先(媒体表示), 入手先(URL)(参照日付).

例1

情報処理学会:コンピュータ博物館設立の提言, 情報処理学会(オンライン), 入手先(<<http://www.ipsj.or.jp/03somu/teigen/museum200702.html>>(参照2007-02-05)).

例2

Alan Kay: Welcome to Squeakland, Squeakland (online), available from (<<http://www.squeakland.org/community/biography/alanbio.html>> (accessed 2007-04-05)).